

平安京右京三条一坊七町跡

2003年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京三条一坊七町跡

2003年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しております。また、平安京遷都以来今日に至るまで都市として永々と生活が営まれてきており、各時代の生活跡が連綿と重なり合っています。都であるゆえに、そこから発見されるその一つ一つは、日本の歴史を語るうえで欠くことのできないものとなっています。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした遺跡の発掘調査を通して京都の歴史の解明に取り組んでおります。その成果を市民の皆様に広く公開し活用いただけるよう進めていくことが研究所の責務と考えております。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、出土遺物の小・中学校や公的施設での貸出展示、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところであります。

さて、当研究所では従来各年度毎で報告してまいりました「京都市埋蔵文化財調査概要」を改め、平成13年度調査分より各調査箇所毎に1冊の報告書として発刊しております。平成14年度の第1冊目として、このたび地下鉄東西線西進工事の為の二条発進基地建設に伴います平安京跡の発掘調査の成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援をたまわりました関係者各位に厚くお礼ならびに感謝を申し上げる次第です。

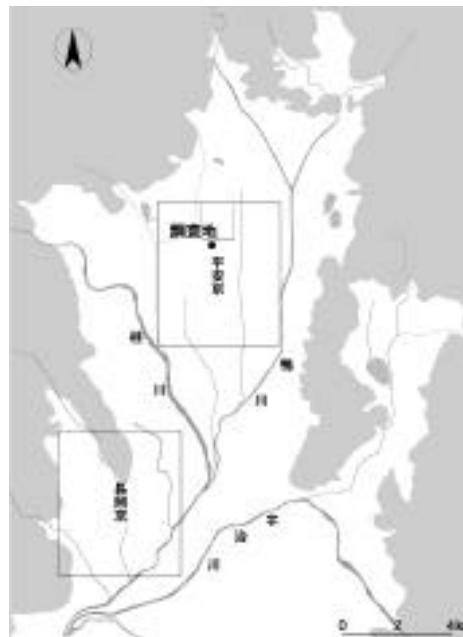
平成15年3月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京右京三条一坊七町跡
- 2 調査地点所在地 京都市中京区西ノ京星池町39-1他
- 3 委託者及び承諾者 京都市 代表者 京都市公営企業管理者 交通局長 江草哲史
- 4 調査期間 2002年8月1日～2002年9月13日
- 5 調査面積 約180m²
- 6 調査担当職員 尾藤徳行・本 弥八郎
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「壬生」を参考にし、作成した。
- 8 使用方位・座標値 使用測地系 日本測地系（改正前）平面直角座標系（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度（座標および標高は、京都市遺跡測量基準点を使用した）
- 10 遺構番号 調査区ごとに通し番号を付し、遺構種類を前に付けた。
- 11 遺物番号 挿図の土器類・瓦類・石製品・木製品の順に通し番号を付した。
- 12 掲載写真 村井伸也・幸明綾子
- 13 作成担当職員 尾藤徳行・本 弥八郎・吉村正親・南出俊彦

（調査地点図）



目 次

1 . 調査経過	1
2 . 周辺の調査	1
3 . 遺 構	3
4 . 遺 物	4
(1) 土器類	5
(2) 瓦 類	6
(3) 石製品	6
(4) 木製品	7
5 . ま と め	8

図 版 目 次

図版 1	遺構	1 トレンチ第 1 面平面図 (1 : 100)
図版 2	遺構	1 トレンチ第 2 面平面図 (1 : 100)
図版 3	遺構	1 トレンチ第 3 面平面図 (1 : 100)
図版 4	遺構	2 トレンチ第 1 ・ 2 面平面図 (1 : 100)
図版 5	遺構	1 ・ 2 トレンチ断面図 (1 : 100)
図版 6	遺構	1 1 トレンチ第 1 面全景 (北西から) 2 1 トレンチ竹製暗渠SD 1 (西から)
図版 7	遺構	1 1 トレンチ第 2 面全景 (北から) 2 1 トレンチ南北溝SD42 (北西から)
図版 8	遺構	1 1 トレンチ第 3 面全景 (北西から) 2 1 トレンチ三条坊門小路内溝SD40 (北東から)
図版 9	遺構	1 2 トレンチ第 1 面全景 (北東から) 2 2 トレンチ第 2 面全景 (北東から)
図版 10	遺物	1 出土土器類 2 出土軒瓦・石製品・木製品

挿 図 目 次

図 1	調査トレンチ配置図 (1 : 2,000)	1
図 2	調査前全景	1
図 3	調査風景	1
図 4	調査位置図 (1 : 2,500)	2
図 5	出土土器実測図 (1 : 4)	5
図 6	出土軒瓦拓影・実測図 (1 : 4)	6
図 7	扁平片刃石斧実測図 (1 : 2)	6
図 8	出土木製品実測図 (1 : 4)	7

表 目 次

表 1	周辺の調査一覧表	2
表 2	遺構概要表	3
表 3	遺物概要表	8

平安京右京三条一坊七町跡

1 . 調査経過

調査地は、京都市中京区西ノ京星池町地内で、京都市交通局が地下鉄東西線の西進工事のため二条発進基地を建設することとなり、京都市埋蔵調査文化財センターの指導のもと、当研究所が発掘調査を実施することとなった。調査は8月1日から9月13日まで行った。

現地で工事施工主体の京都市交通局、土地管理者の拠点整備課、当研究所で調査区設定の打ち合わせを行い、敷地南西部に17.4 × 6.4m (約110㎡)、北東部に10.7 × 6.2m (約70㎡) のトレンチ位置の確認を行った。

敷地南西部に設定した1トレンチでは地表下約1.3mまで、北東部の2トレンチでは地表下1.3～1.5mまでの現代盛土層を重機による排土を行った。その後、人力により遺構検出等の作業を経て、1トレンチ第1面の写真撮影、遺構図面作成を行い、以後、1トレンチ第2面、2トレンチ第1面、2トレンチ第2面、1トレンチ第3面の写真撮影、遺構図面作成を行った。最後に遺構の有無を確認する断ち割り調査を経て、重機によりトレンチの埋め戻し、事務所を撤去し調査を終了した。

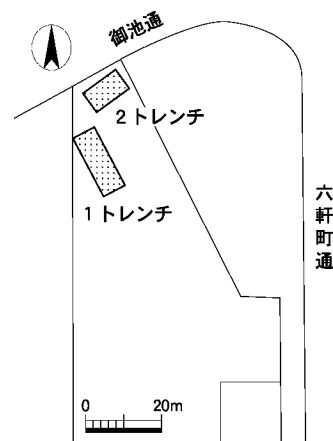


図1 調査トレンチ配置図
(1 : 2,000)

2 . 周辺の調査

当地は、平安京右京三条一坊七町に該当し、『拾芥抄』によると、米穀の収納・保管にあたった穀倉院の置かれた所である。また、すぐ南側の六町には、「百花亭」とよばれた右大臣藤原良相の西三条第があったとする説もあり、注目される地域である。当調査地北隣の道路部分で1997年度に実施された発掘調査(09-05～09)では平安時代から鎌倉時代にかけての池跡、平安時代の建



図2 調査前全景



図3 調査風景

物跡などが検出されており、また、当地東隣で2001年度に行われた調査（13-02）では三条坊門小路の路面、南・北側溝、穀倉院南面築地、同内溝などが検出されている。さらに、東側の1997年度の調査（09-01）でも平安時代前期から後期の路面、北側溝、内溝などが検出されている。

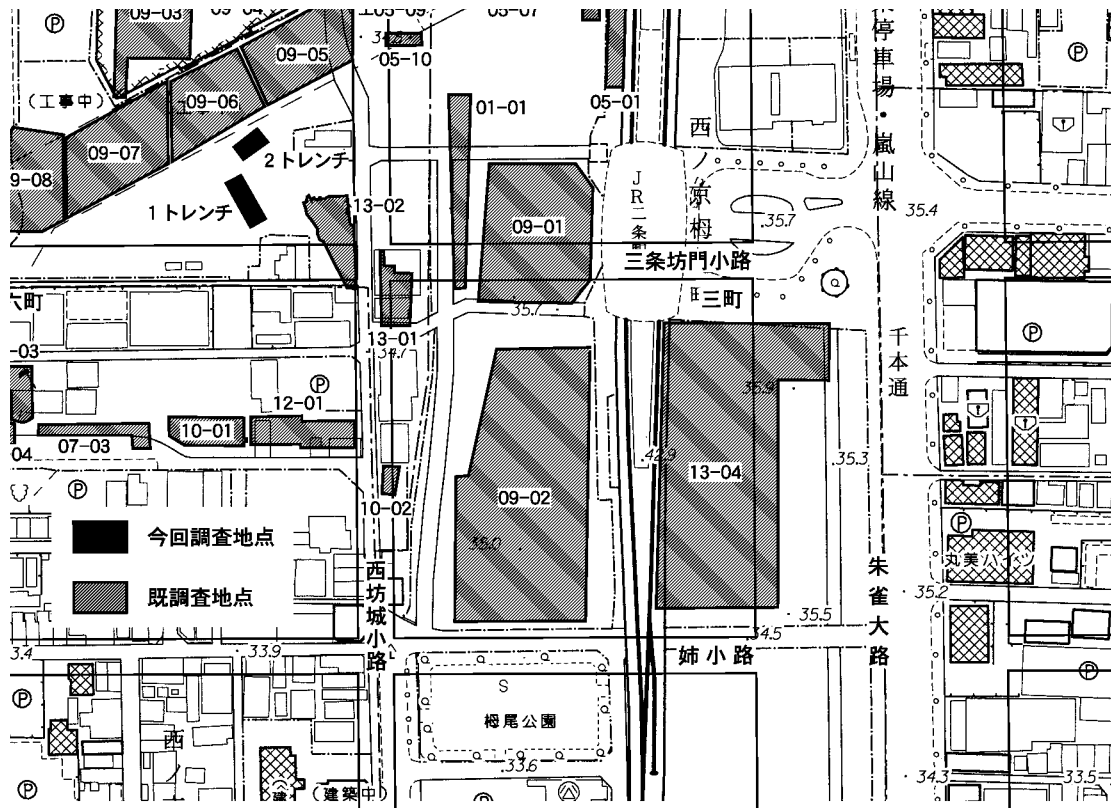


図4 調査位置図（1：2,500）

表1 周辺の調査一覧表

年度	No.	調査法	文献（発行：財団法人京都市埋蔵文化財研究所）
1989	01-01	発掘	堀内明博「平安京右京三条一坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 1994年
1993	05-01	発掘	吉村正親「平安京右京三条一坊1」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 1996年
"	05-02~04	発掘	平田 泰「平安京右京三条一坊3」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 1996年
"	05-05~10	試掘	平田 泰「平安京右京三条一坊6」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 1996年
1995	07-01~02	試掘	小檜山一良「平安京右京三条一坊1」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 1997年
"	07-03~04	試掘	伊藤 潔「平安京右京三条一坊2」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 1997年
1997	09-01	発掘	伊藤 潔「平安京右京三条一坊1」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 1999年
"	09-02	発掘	伊藤 潔「平安京右京三条一坊2」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 1999年
"	09-03~04	発掘	平田 泰「平安京右京三条一坊3」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 1999年
"	09-05~09	発掘	吉村正親「平安京右京三条一坊4」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 1999年
1998	10-01~02	発掘	伊藤 潔「平安京右京三条一坊1」『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 2000年
2000	12-01	発掘	『平安京右京三条一坊三・六・七町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-11 2003年
2001	13-01~03	発掘	
"	13-04	発掘	『平安京右京三条一坊三町（右京職）跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-3 2002年

3. 遺 構

1 トレンチ

基本層序は、南半部では地表下1.2mまでが現代盛土層で、その下に耕土・床土・整地層が4層（厚さ40cm）あり、以下が粗砂・砂礫層の地山となる。北半部は整地層下、地表下1.6m以下が池の堆積層となり、1.8m以下が地山となる。まず、盛土層と耕土層を重機で排土した。1 トレンチ断面図（図版5）のように、近世包含層の上面を第1面、下面を第2面として、遺構を検出した。

耕土直下の第1面では、竹製暗渠SD1・6や溝SD2・5・7、14、土壙SK8・10～13を検出した。近世から近代頃の遺物が少量出土した。

第2面では、溝SD16～25・28～31・33・34、土壙SK26・27・32・35・36を検出した。室町時代の遺物が出土している。中世の耕作用の溝と考える。トレンチ東端部で検出した南北溝SD42は、東肩は調査区外だが幅1.2m以上、深さ0.25mを測る。室町時代の土師器皿が出土。

第3面では、平安時代の池跡SG45を検出した。池はトレンチの北2/3を占め、底部は南東から北西方向に向け緩やかに低くなっている。埋土は黒褐色泥砂層（1 トレンチ断面図 - 第15・16層）で、最も深い所はトレンチ北端で0.2mある。埋土からは平安時代前期・中期の土師器皿や水晶片、瓦などが出土している。ただし湧水の痕跡（1 トレンチ断面図 - 第4層）が多数あり、池の堆積層が攪拌されたために中世の遺物が混入する。北西部の池底部からはSK38・39を検出した。形状は径が0.7～0.9mの不整円で、深さ0.45m。遺構の性格は不明だが、埋土に池の堆積層である腐植土が入ることから池と同時期で、平安時代中期の土師器皿が出土する。

調査区東隣の2001年度調査（13-02）において三条坊門小路の路面・北側溝・築地基底部・七町の築地内溝が検出され、内溝からは平安時代初期の土器類が多量に出土している。その延長上にて、調査区南端で東西方向の溝SD40の肩口を検出した。幅0.5m以上、深さ0.2m以上で全容は明らかでない。遺物も少なく、平安時代中期頃と思われる土師器皿の小片が出土した程度である。

2 トレンチ

部分的に旧建物の基礎があったが、基本層序は、地表下約1.0mまでが現代盛土層で、その下に厚さ約0.1mの耕土・床土層が4層ほどある。地表下1.5m以下は池の堆積で、1.7～2.0m以下は粗砂・砂礫の無遺物層となる。まず、盛土層と第1～6層を重機で排土した。

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	
	1 トレンチ	2 トレンチ
平安時代	池SG45、溝SD40、土壙SK38・39	池SG44B
中 世	溝SD14・16～23・26・28・30・32・33・36・37・42	池SG44A、溝SD43
近 世	竹製暗渠SD1・6、溝SD3・7	

第1面では、室町時代の南北溝SD43、中世の池SG44Aを検出した。溝SD43は幅約1.4m、深さ0.3mで、室町時代の土師器皿が出土する。この溝は1トレンチの溝SD42の北延長部に位置する。池SG44Aはトレンチの中央部を占め、東と南西方向が高く、北の調査区外に延びるとみられる。池内には泥土・腐植土が約10cm堆積し、30cm大の石が点在する。堆積層には湧水により噴出した砂の小穴が多数認められた。出土遺物には中世の土師器皿、加工木などがある。

第2面では池SG44Bを検出した。池は南側を除きトレンチのほぼ全域を占める。池の施設としてトレンチ北辺で拳大の石を敷き詰めた洲浜を検出した。池の底部には不定形な粗砂の広がりが見られ、池SG44Aと同じく湧水跡(第2面)であることがわかる。断ち割り作業で一部(2トレンチ断面図 - 第16・17層)から現在も湧水することが確認された。池の埋土は黒褐色泥砂層で、深さ約20cmである。埋土からは平安時代の土師器、須恵器、瓦、木製品が出土した。

4. 遺物

出土遺物は遺物整理箱で25箱で、内訳は24箱が土器・瓦類、1箱が木器類である。そのうち土器・瓦類の15箱は1トレンチ、9箱が2トレンチから出土した。

1 トレンチ

江戸時代の遺物は、暗渠SD1・6から染付・陶器などが出土し、その他の溝からは土師器皿、陶器、瀬戸皿などが出土した。

室町時代の遺物は、江戸時代の暗渠に混入したものやその下層の遺物包含層から出土した。内容は土師器皿、陶器掻鉢、瓦、漆器椀、加工木などがある。漆器椀は溝SD42から出土した。

鎌倉時代の遺物では、土師器皿が湿気抜き溝SD21や遺物包含層からわずかな量が出土した。

平安時代の遺物は、溝SD14、土壌SK39・35、池SG45や他の遺構に混じって出土した。内容は土師器皿、緑釉陶器椀、須恵器杯・甕・円面碗、灰釉陶器浄瓶、瓦類などである。浄瓶はトレンチ南端底面の黒褐色砂泥層から出土した。瓦類の出土は少ないがトレンチ南端の黒褐色砂泥層から奈良時代の偏向唐草文軒平瓦が出土している。

弥生時代・古墳時代の遺物は、平安時代から室町時代の遺構や遺物包含層に混入して数点出土したが、いずれも磨滅した小片である。

2 トレンチ

江戸時代の遺物は、盛土層下の耕作土層からわずかに出土している。

鎌倉時代や室町時代の遺物は、土師器皿や瓦器椀などが第1面の池SG44Aや溝SD43から出土している。いずれも小片である。

平安時代の遺物は、平安時代中期の土師器皿や緑釉陶器・須恵器杯などが池SG44Bから少量出土しており、他の時代の遺構からも混入して出土した。

弥生時代・古墳時代の遺物は、平安時代から室町時代の遺構や遺物包含層に混入して数点出土したが、いずれも磨滅した小片である。扁平片刃石斧は、平安時代の池の黒色土層から出土した。

出土遺物のうち、土器類の(図5 - 1~12)は1トレンチから、(13~15)は2トレンチから出土した。瓦類の軒丸瓦(図6 - 16)は2トレンチから、軒平瓦(17)は1トレンチから出土した。石製品の扁平片刃石斧(図7 - 18)は2トレンチから出土した。木製品の(図8 - 19・21~23)は1トレンチから、(20・24)は2トレンチから出土した。

(1) 土器類(図5)

土師器小皿(1) 9世紀のものである。1トレンチ第19層から出土。

土師器皿(2) 9世紀。1と同じく、1トレンチ第19層から出土。

緑釉陶器椀(3) 全面に釉が施される。9世紀。1トレンチ池のSG45の南端から出土。

須恵器杯(4) 輪高台のある小型のもので、9世紀である。1トレンチ第15層から出土。

須恵器杯(5) 大型で、口縁を欠く。9世紀。1トレンチ池のSG45から出土。

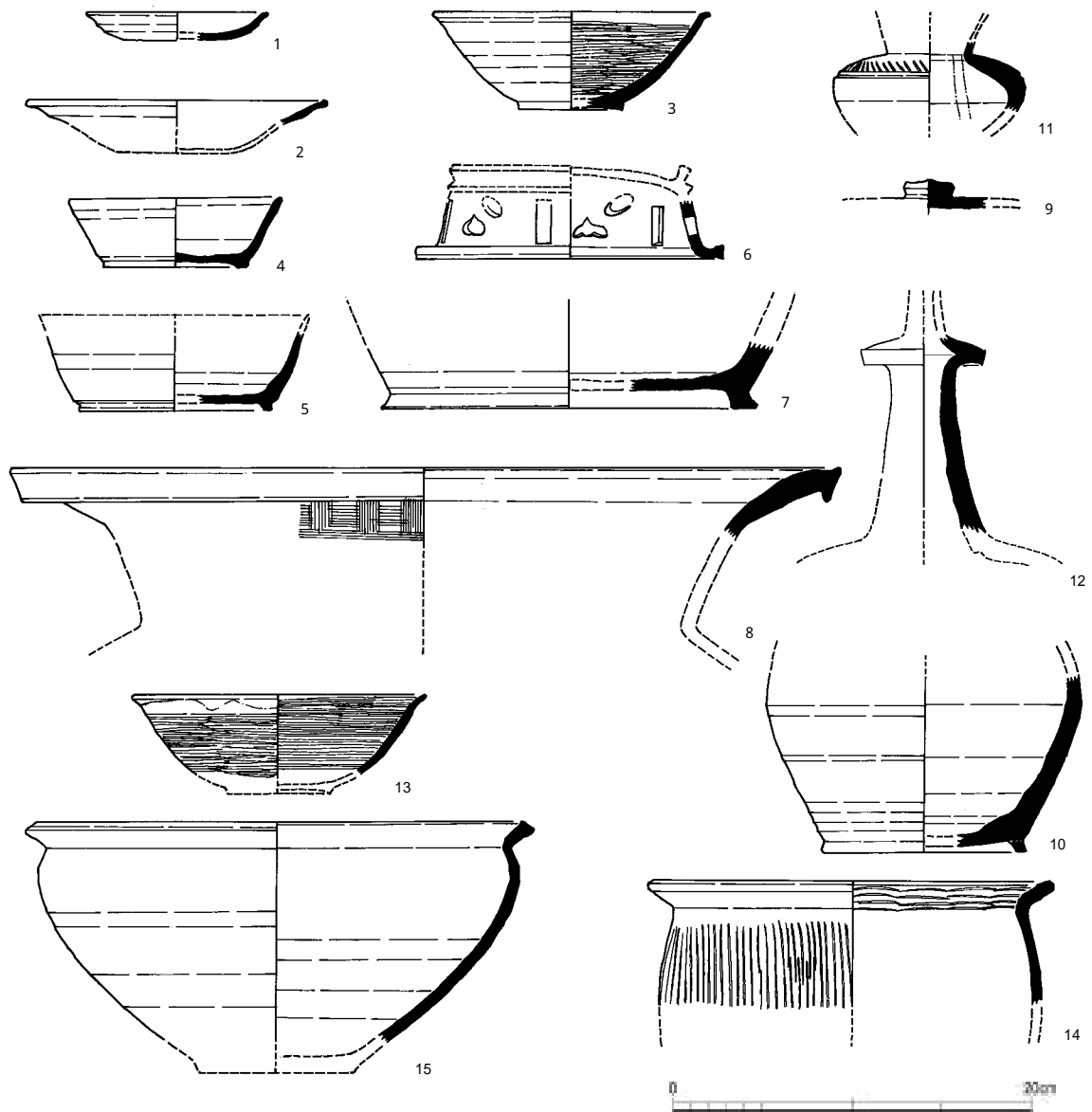


図5 出土土器実測図(1:4)

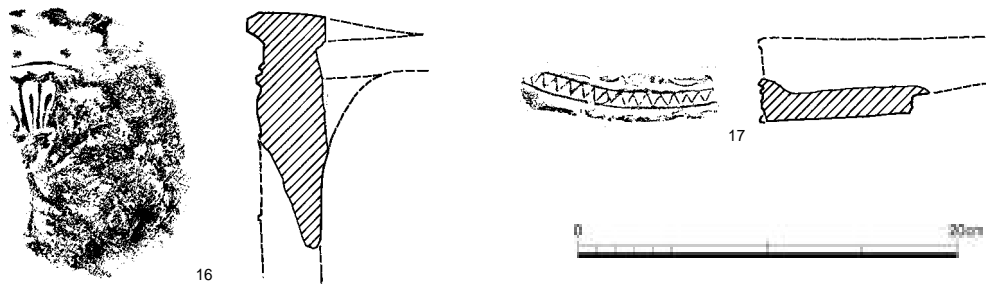


図6 出土軒瓦拓影・実測図(1:4)

須恵器円面硯(6) 透かしがある小片で、9世紀のものである。1トレンチ第18層から出土。

須恵器短頸壺(7) 底部の破片で、自然釉がつく。9世紀。1トレンチ第19層から出土。

須恵器甕(8) 口縁部の破片で、タタキがすり消してあり、外面にクシ描きの横線文が入る。9世紀のものである。1トレンチ第8層から出土。

須恵器杯蓋(9) 茶褐色を呈する。9世紀。1トレンチの池SG45より出土。

須恵器長頸壺(10) 下部のみの破片である。白い砂粒が多く見られる。9世紀。1トレンチ第16層から出土した。

須恵器(11) 7世紀初頭の古墳時代末期のものである。1トレンチ第19層から出土した。

灰釉陶器浄瓶(12) 頸部のみの破片である。全面に釉がかかり、釉だまりが見られる。9世紀。1トレンチ第19層から出土。

黒色土器椀(13) 内外にミガキ施され、内面は黒色を呈するAタイプの椀である。10世紀。2トレンチ池のSG44Bの第12層から出土した。

土師器甕(14) 口縁部と体部に平行タタキが施される。2トレンチの第1面から出土。

須恵器鉢(15) 9世紀から10世紀頃の篠の鉢か。2トレンチの第1面から出土。

(2) 瓦類(図6)

複弁八葉蓮華文軒丸瓦(16) 小片である。平安時代前期のものと考えられる。2トレンチの池SG44Bの最下層から出土した。

偏向唐草文軒平瓦(17) 軒平瓦の段頸部分で、鋸歯文の部分が残存。藤原宮式6647-D。1トレンチ南端の黒褐色砂泥の第19層から出土した。

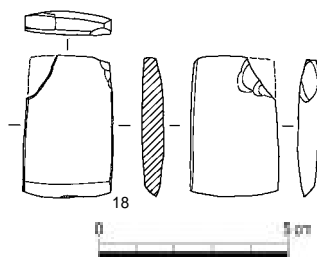


図7 扁平片刃石斧実測図
(1:2)

(3) 石製品(図7)

扁平片刃石斧(18) 2トレンチの平安時代の池SG44Bの底面の黒色土層から出土した。直方体の短辺を削って片刃の刃先をつけた形で、全長35~37mm、刃先幅23mm、厚さ3.0~5.5mmと中央部分がやや肥厚する。使用痕が認められない。

(4) 木製品 (図 8)

漆器椀 (19) 直径11.3cm、高さ3.7cm、土圧で歪んでいる。内面は朱漆、外面は黒漆で、外面側面には文様が2箇所、底部には文字が朱書きされている。ほぼ完形である。1トレンチの南北溝SD42から室町時代の遺物と共に出土した。

漆器椀 (20) 小片であるが、直径14cm以上、高さ3.6cm以上あり、1の椀よりも大振りである。2トレンチの中世の包含層 (第6層) から出土した。

下駄 (21) 長さ13.5cm、幅7.4cm、高さ1.2cm残存する小振りの下駄である。歯部がずいぶんすり減っている。1トレンチ北西部の近世の包含層から出土した。

木の葉状木製品 (22) 長さ13.6cm程、幅3.6cm、厚さ0.6cmで木の葉状に先端が鋭く加工してある。先端から1/3のあたりには、穴があり木釘が残っている。池底面である1トレンチ北半第19層から出土した。平安時代と考える。

板 (23) 長さ23cm以上、幅4.5cm以上、厚さ0.2cmの薄板で、面取りしてある。1トレンチの北西部の近世の包含層から出土した。

杭状木製品 (24) 一部欠けているが、長さ44.6cmで太いところで3~4cmの幅がある杭状の遺物である。図のように、杭の表裏に2箇所の「×」印の刻みがある。ひも状のものを交差して縛った痕と考えられる。2トレンチの池SG44B東肩部から出土した。平安時代と考える。

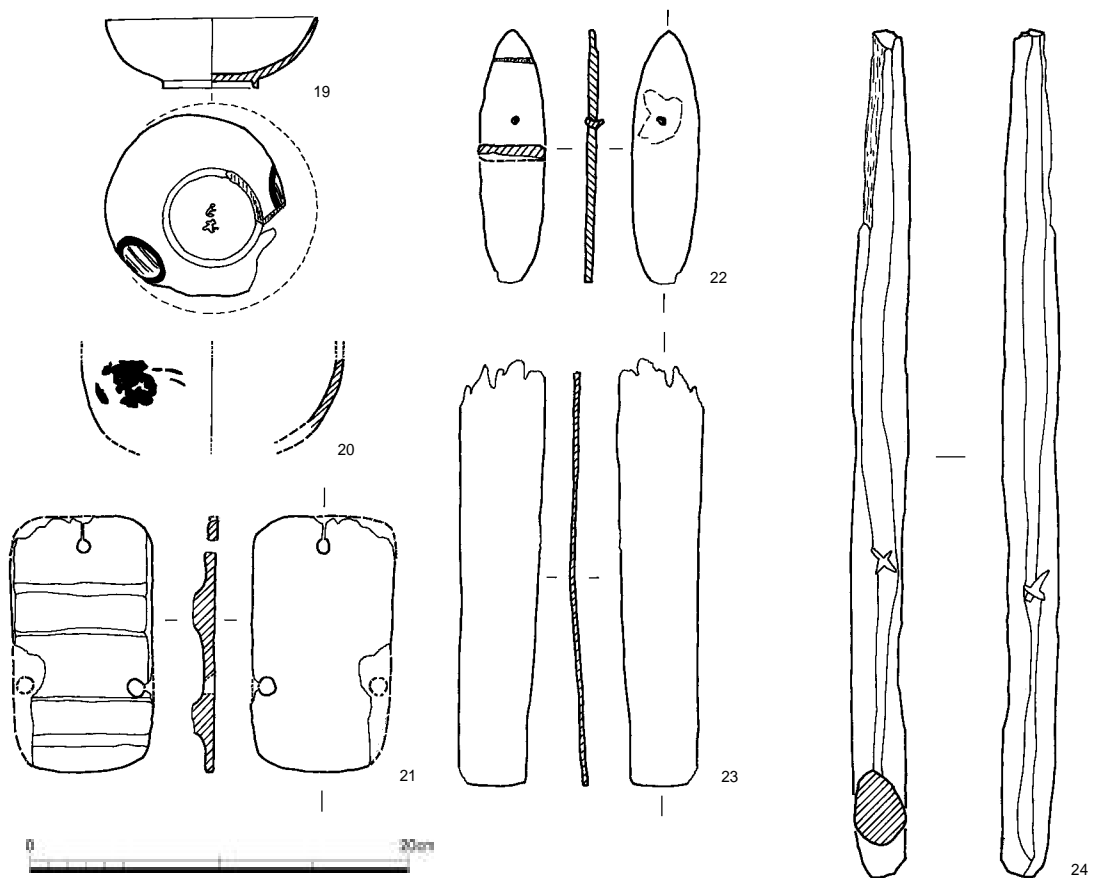


図 8 出土木製品実測図 (1 : 4)

5.まとめ

今回の調査地は弥生時代から古墳時代にかけての壬生遺跡にも該当しており、当地周辺の調査でも、この時代の遺物出土例が多く報告されている。今回出土した弥生土器や扁平片刃石斧などは、この遺跡に関連するものである。北側隣地の調査（09-06）で、古墳時代前期頃と思われるグリーンタフ製の石鏃が検出された池下層の砂層から出土している。

平安時代の穀倉院は一・二・七・八町の4町を占地していたとされており、調査地は七町の南辺に位置し、検出された遺構は1・2トレンチともに大部分が池跡であった。この池の規模は、前述の調査でも平安時代中期から後期の池を検出しており、さらにその北側の調査（09-03）でも同一の池が確認されており、今回の池南端部まで含めると南北延長がおおよそ100m位になることが明らかになった。2トレンチでは池SG44Bが作られ、北東側にはこぶし大の石を敷き詰めて洲浜を丁寧につけている。この池は、現在でも湧き出る湧水跡があったことから、湧水が豊富であったと考えられる。1トレンチ南端では、敷地南限の三条坊門小路内溝が東西方向に検出されている。同じ七町内である調査区東方の2001年度調査では、調査位置図の調査区（13-02）にて三条坊門小路の路面、北側溝、築地基底部、七町の築地内溝が検出され、内溝からは平安時代初期の土器類が多量に出土している。このことから、三条坊門小路の北側に面する敷地には、平安時代前期から何らかの施設があったが、平安時代中期以降には池が縮小していったと考えられる。池SG44Aからは、平安時代やそれ以前の遺物とともに中世の遺物が出土していることや、2トレンチの室町時代の南北溝SD43や1トレンチの多数の溝の遺物から考えると、中世には2トレンチの池は埋まり耕作地となったようである。しかし、2トレンチと1トレンチの北端は湧水が多く池のままであったと考えられる。

近世には、両トレンチとも耕土となり、以降は、1トレンチの竹製暗渠などが作られ、農地として利用された。

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
弥生時代・古墳時代	扁平片刃石斧、須恵器	1箱	扁平片刃石斧1点、須恵器1点	1箱	0箱
平安時代	土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦、木製品	8箱	土師器3点、黒色土器1点、須恵器8点、緑釉陶器1点、灰釉陶器1点、軒丸瓦1点、軒平瓦（搬入瓦）1点、木製品2点	4箱	3箱
中世	土師器、瓦器、陶器、瓦、漆器、木製品	13箱	漆器2点	6箱	6箱
近世	土師器、陶器、染付、木製品	5箱	木製品2点	2箱	3箱
計		27箱	24点（2箱）	13箱	12箱

圖 版

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうさんじょういちぼうしちちょうあと							
書名	平安京右京三条一坊七町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報							
シリーズ番号	2002-1							
編集者名	尾藤徳行・本 弥八郎・吉村正親・南出俊彦							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2003年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょううきょう 平安京右京 さんじょういちぼう 三条一坊 しちちょうあと 七町跡	きょうとしなかぎょうく 京都市中京区 にしきょうほしがいけちょう 西ノ京星池町	26100		35度 00分 28秒	135度 44分 35秒	2002年8月 1日～2002 年9月13日	180㎡	地下鉄 建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京右京 三条一坊 七町跡	都城跡	弥生時代 ・古墳時代	なし	扁平片刃石斧・須恵器		平安時代の池・ 三条坊門小路内溝		
		平安時代	池・溝・土壇	土師器・黒色土器・須 恵器・緑釉陶器・灰釉 陶器・瓦類・木製品				
		中世	池・溝	土師器・瓦器・陶器・ 瓦・漆器・木製品				
		近世	竹製暗渠・溝	土師器・陶器・染付・ 木製品				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-1

平安京右京三条一坊七町跡

発行日 2003年3月31日

編集発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 075-256-0961